

野生鳥獣被害防止

マニュアル

－ ハクビシン －



近年、野生鳥獣による農作物等被害は全国で大きな社会問題となっている。農作物被害額は毎年 200 億円にものぼり、しかも中山間地域などでは、特定の地域に集中的に発生するなど激甚な被害となっている。

農林水産省では、こうした被害への対策を効果的に進めるため、野生鳥獣の生態等に関する知識や被害防止技術を農業者等へ普及する教材として、平成 17 年度に「野生鳥獣被害防止マニュアルー生態と被害防止対策（基礎編）」を作成し、関係自治体等へ配布した。

更に、平成 18 年度には、イノシシ・シカ・サルによる農作物被害防止対策を効果的に実施するため、先の基礎編の続編である実践編として、現場の指導ですぐに役立つ技術マニュアルを作成した。

本マニュアルは、これまで作成してきたマニュアルのシリーズ編として位置づけ、最近になって都市近郊農地や住宅地域でも被害が問題となっているハクビシンの被害対策に対応するものとして、平成 19 年度に専門家による検討会を中心に作成された。

ハクビシンは、外来動物と考えられているが、移入時期が不明であることから、外来生物法の対象外となっている。一方で、果樹等へ甚大な農業被害や住宅への侵入による家屋汚損被害等が各地で発生し、対策手法の確立が求められている。

本種の生態に関する研究が少ないことから、不明な点が多く、対策技術の開発も緒についたばかりであるが、本マニュアルでは、可能な限り最新の情報を盛り込むように努めたところであり、今後、新たな知見によって適宜改定される必要がある。

本マニュアルが、各地域の技術指導者である普及指導員、市町村担当者、JA 担当者等の方々に十分活用され、被害対策で大きな成果が得られることを期待する。

平成 19 年度鳥獣害対策専門家育成検討委員会獣類小委員会
委員長 羽山 伸一
(日本獣医生命科学大学野生動物教育研究機構 機構長)

はじめに

第Ⅰ章 ハクビシンの基礎知識

1. ハクビシンの分布	5
2. 形態・生態	6
3. 運動能力	8
4. ハクビシンによる被害状況	9
5. ハクビシンの捕獲状況	11

第Ⅱ章 被害防止対策

1. 被害防止対策のポイント	14
2. 被害を及ぼす動物の特定	16
3. ハクビシンを寄せつけない営農管理	19
4. 侵入防止対策技術	21
5. 被害防止対策の試験研究	28
6. 捕獲による被害軽減	30

第Ⅲ章 被害対策の取組事例

1. 福島県郡山市におけるイチゴ被害対策	38
2. 群馬県富岡市における被害対策	40
3. 鎌倉市における捕獲対策	42
4. 福島県北地方におけるぶどう被害対策	44
5. 電気柵・忌避剤による獣類対策実証試験	45
6. 農作物における被害対策試験開発（新型電気柵）	46
7. かんきつ果樹園における被害防除対策試験	47
8. ぶどう園における被害防除対策試験	48

- 問い合わせ先
- 参考文献図書
- おわりに
- 野生鳥獣被害防止マニュアル作成委員